

令和5年度 第18回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和6年1月29日（月）

2 会議の場所

仙台法務局名取出張所2階 名取市教育委員会 第4会議室

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 荒井 龍弥

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 長澤 裕司

4 欠席者

なし

5 傍聴者

ランドブレイン（株） 2名

6 説明のために出席した者

別紙のとおり

7 議題

(1) 名取市スポーツ推進計画について

8 開会時間

午後3時00分

9 会議の概要

下山教育部次長兼教育総務課長

それでは、第18回総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、ただいまから会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は大変お忙しいところ、第18回、合教育会議に瀧澤教育長はじめ教育委員の皆様にお集まりいただきありがとうございます。

本日の教育総合会議のテーマは「名取市スポーツ推進計画について」となります。本市では、名取市サイクルスポーツセンターやトレイルセンターなど特色のある施設が存在しております。また、プロスポーツに触れる機会の創出や地域の活性化につなげるべく、ベガルタ仙台や仙台89ERSといったプロスポーツチームとの包括連携協定の締結しております。

さらにこの秋には、自転車を活用したまちづくりを推進する全国市町村長の会の会員など約500人が一堂に会する、「全国シクロサミット」を名取市で開催予定としており、豊富なスポーツ資源を生かしたまちづくりを進めているところであります。

今回教育委員会で策定するこのスポーツ推進計画においても、第6次長期総合計画で掲げております、「愛されるふるさと」を、市民とともに作る施策へつなげていけるような計画策定となりますよう期待をしているところであります。

本日は、限られた時間となりますが、教育委員の皆様方から忌憚のないご意見等をちょうだいいたしまして、よりよい計画となるよう議論を深めてまいりたいと考えております。どうぞよろしく願います。

下山次長兼教育総務課長

それでは、3の議題に入ります。ここからは、名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項により、市長が議長として議事を進めさせていただきます。山田市長、よろしく願います。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。本日の議題(1)、名取市スポーツ推進計画についてですが、内容が多岐にわたっていることから、二部構成とし、前半でスポーツ推進計画素案の一章から2章まで、後半で3章から5章までに分け、それぞれ事務局から説明をいただいた後に協議をすることといたします。では事務局より資料に基づき説明をお願いいたします。

中島文化・スポーツ課長

それでは本日は御協議どうぞよろしく願います。説明に先立ちましてご紹介ですが、スポーツ推進計画につきましては策定作業を委託しております。本日、受託事業者である、ランドブレイン(株)様が傍聴しておりますので、ご承知おきいただければと思います。よろしく願います。では計画の説明のほうは担当よりいたします。

及川文化・スポーツ課主事

名取市スポーツ推進計画(素案)について、ご説明いたします。委員のみなさまには各種資料を事前に送付させていただいております。内容が多岐にわたりますので、各種資料につ

いてそれぞれご説明は申し上げますが、この内容を踏まえて計画（素案）を作成しましたので、こちらを使用して説明させていただきます。

はじめに、計画書に掲載している写真等は暫定版となっております。今後変更が生じる可能性がございますのでご了承ください。また、用字・用語について整理が必要と考えております。言葉の言い回しや語句の使い方等、お気づきの点がございましたらご意見頂戴できればと存じます。

では、計画（素案）前半部分、第1章・第2章、1ページから18ページまでを説明いたします。2ページから3ページ、策定趣旨、位置づけ、期間についてはポイントを絞ってまとめてご説明いたします。当計画は、本市の長期総合計画に掲げるゴールに到達するために、将来の本市スポーツ推進のあるべき姿や目標を定め、その実現に向けて取り組むべき施策を明らかにするためのマスタープランとして策定するものです。位置づけですが、3ページをご覧ください。本計画はスポーツ基本法第10条における「地方スポーツ推進計画」として位置づけ、名取市第六次長期総合計画を最上位計画とした、本市におけるスポーツ推進の基本となる計画です。計画期間は、名取市第六次長期総合計画及び名取市教育振興基本計画の終了年次と合わせ、令和6年度から12年度までの7年間となります。

4ページ 計画が対象とするスポーツの範囲について説明いたします。今後、本市のスポーツ振興を図っていくうえで、まずは「スポーツに対する心理的・物理的ハードルを緩和」することが必要と考えております。「スポーツ」という言葉を聞くとどうしても競技性のあるものを想像してしまいハードルを感じる方もいらっしゃると思いますが、「スポーツ」というものは「身近なものであり、気軽にできるもの」であるということの意識をもっていたいただきたいと思います。このことから本計画におけるスポーツの範囲を、競技種目、軽い運動、レクリエーション活動や日常生活において自発的に行う身体活動の3つに分けて、すべてスポーツとして幅広く捉えることとし、「身近・気軽」に親しんでいただくことを目指していきたくと考えております。

続いて5ページ、スポーツの力について説明いたします。計画書2ページの計画策定趣旨冒頭において触れておりますが、「スポーツ」には様々な力があることに注目されているところであります。こうした「スポーツの力」について市民の皆様に理解を深めていただくとともに、スポーツを始める動機付けとして取り上げているものです。また、スポーツの力は、国際開発目標であるSDGsを達成するための重要な役割として注目されております。6ページに「SDGsとスポーツの力」に関連したコラムを掲載しております。

続いて7ページ～18ページ「本市を取り巻くスポーツに関する現況」について、11ページから18ページ「スポーツに関する取組と成果」、「主な現況」の2点に絞って説明いたします。

まず、スポーツに関する取組と成果についてです。11ページをご覧ください。これまで第六次長期総合計画にこちらの3つの施策を掲げて取り組んできました。成果としましては、12ページのとおりであります。第六次長期総合計画策定基準年であるH29年度時点では、震災により体育施設が被災した影響もあり、スポーツ環境の充実に関する市民の満足度が低調となっております。その後、体育施設の復旧に伴い、利用者数については、増加してきましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、直近の令和4年度時点では社会体育事業の参加

者数等については減少しました。本市のスポーツ振興については、様々な変遷を経て着実に振興を図ってきたところでありますが、全体的に東日本大震災及び新型コロナウイルス等の影響が大きいものと捉えております。震災で被災した施設の復旧や新型コロナウイルスが5類に移行され、スポーツ活動も活発になっておりますので、今後は各施策を展開することでスポーツ振興を図って参りたいと考えております。

次に13ページから18ページまでの主な現況についてですが、スポーツをする、みる、ささえるの視点やスポーツ行政と親和性の高い健康データ等から本市スポーツを取り巻く現況を整理しました。まず、13ページ、市民のスポーツ実施状況についてです。本市市民のスポーツ実施状況は35.7%と国や県の一般的な水準と比べて低い結果となりました。14ページをご覧ください。スポーツをしない理由としては、「時間がない(仕事・育児)」、「機会がない」、「年をとったから」などが挙げられており、ライフステージの変容に伴い、スポーツに取り組むことが困難であることが伺えます。一方で市民のスポーツ実施状況におけるポイントですが、下段のグラフをご覧ください。スポーツを継続的に実施している層よりも、始めたい思いがある市民の割合が高いことが挙げられ、今後はこのような思いを持っている方々にアプローチを行っていくことが効果的と考えます。

次に15ページ子どものスポーツ実施状況についてです。子どものスポーツ実施状況は一般的な水準として公表されているものがなく、大人と同様の視点で本市独自に把握をしたものです。大人に比べて高い割合でスポーツをしている子どもたちですが、スポーツをしない子どもの理由として、「嫌いだから」などの心的ハードルの影響が挙げられます。16ページをご覧ください。本市の「スポーツをすることが好きな児童生徒」の割合みると、小学生男児・女児ともに国や県の水準よりも低い状況となっております。進学に伴う影響は国や県と同様の傾向で、中学生になると減少し、特に女児でその傾向が顕著です。子どものスポーツ実施状況におけるポイントとしては、心的ハードル等により、スポーツをしない、スポーツから離れてしまうということがないように、スポーツをすることが好きな子どもを増やしていくことが重要と考えます。

次に17ページ、スポーツ観戦状況についてです。スポーツをみることで、スポーツ参加への動機付けなどにもつながるという視点から、みるスポーツへの関わり方も重要と考えます。本市は各種プロスポーツの観戦環境に恵まれている仙台市へのアクセス性が高いこともあり、高い割合となっております。

同じく17ページ、スポーツボランティア参画状況についてです。東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催以降、スポーツをささえるという立場での関わり方にも注目がされているところであります。本市は国と比較して概ね同水準となっております。

次に18ページ、健康状態についてです。スポーツの実施率等が低いことだけが影響しているものではないと考えますが、宮城県、そして本市にとっても長期にわたる課題として、成人のメタボリックシンドローム該当者・予備軍、児童生徒の肥満傾向児の割合が高いことが挙げられます。令和4年度時点の数値においても、国より高い割合となっております。

前半部分の説明は以上となります。

山田市長

はい、ありがとうございます。ただ、ただいまの説明を踏まえて協議を進めてまいります。

今説明のあった内容は、計画策定にあたっての趣旨や計画の位置づけ、またアンケート結果を踏まえた、本市を取り巻くスポーツに関する現況についてまとめたものとなります。ここまでの内容について確認したいこと、これまでの成果についてのご意見、また、課題と思われる部分などのご意見等いただければと思います。いかがでしょうか。

スポーツの実施率が、国が56%で、名取市は35%となっております。過去1年間にスポーツを行った割合と週に1日以上スポーツを行った割合を掛け算して実施率を出していますが、全国平均では56%と、過半数が実施しているのですけれど、名取市は35.7%ということで県の平均より低いという結果になっております。

それから、理由について、「時間がない、機会がない、年をとった、面倒」と、いろいろあるようですが、やりたい思いはある、始めたい思いはある、というところが意見として上がってきています。子供も同様に、ちょっと低い、スポーツをすることが好きだ、好きか、というところでいうと、小学生が男女ともちょっと全国平均よりは低いというような結果になっており、それがつながっているかどうかは別にして、メタボリックシンドロームの該当予備軍の関係であるとか、肥満傾向児というところで、数値的に県や国、特に全国と比較して、そういう生活習慣の前段階みたいなのところの数値がちょっと悪いというようなことになっているということですが、どうでしょうか。

洞口委員この現状を見ていかがですか。

洞口教育委員

名取市が全体的にどちらかというと低いというような内容なのですが、スポーツをやる方は一生懸命やっており、やらない方は全然やらないというような現実があるのですけれども、これは各町内のほうでもそういう機会を、各町内会でもちょっと催すものも一つぐらいあってもいいのかな、と思っております。名取市全体だけの問題じゃなくて、もっと下におろして健康を増進、ということの呼びかけも必要かなあと思っております。

ここの14ページにあるように、機会がなかった、年をとった、面倒だ、というのは、もう、ある程度今忙しい世の中ですので、若い方々も年配の方々も該当しているのではないかな、と思っております。

山田市長

なるほど。より身近な地域でスポーツに触れる機会、スポーツをする機会を、町内会等も含めて、つくってはどうかというようなご意見だったと思います。

浅野委員はどうですか。

浅野教育委員

はい、私も14ページのグラフのところ見ていたのですが、始めたい思いはある人が多いけれども、時間がないからってというのは、実際私もそうだな、と思いました。自分の体力

の衰えを感じつつ、何かしたほうがよかろうに、と思っはいるのですが、なかなかきちんと、運動に向き合う時間がとれていない。そして、その機会がなかったしな、とも思います。

恐らくその身の回りで、個人でちょっと散歩、とかではないレベルでの何か運動に触れる機会が、今周りに見当たらず、「ちょっとこれ、やってみてもいいかも」と思えるようなものが見当たらないから、そこにも至っていないのではないかと思います。自分の事として考えると、スポーツをやらないことがこの、「年をとったから」の理由になってしまうが1番問題なのかなと思います。やろうと思っ言っきたのに、じゃ、いざ時間ができてきたら、自分はもう年をとったから、運動しない、とならないように、その、身の回りのものを充実させないと、そのままおうちで引きこもって体力が衰えていっってしまうかな、と考えました。

理由が、年をとったからっいうか、もともとそうやる気があったのか無かったのかっいうとどうのかな、とも思っのですけれど、年をとっしまったからやらない、じゃなくて、せっかく時間が持てるようになったのだからやれるような、そういう身の回りの状況になっっているといいのかな、と思っます。

山田市長

なるほど。年をとっても身近に運動できる環境とか、きっかけづくりとか、そういうことなんでしょうかね。今お話の中に、散歩しかしてないとありましたが、これ、最初の定義でいうと、散歩もスポーツっいうことでもいいのですか。

中島文化・スポーツ課長

はい。

山田市長

ですよね。だからもしかしてこのアンケートを取るときに、散歩みたいなことは、書っほうの側として、含んでないかもしれない。その辺はどうなんですか。何か違っというふうに工夫してはいますか。

及川主事

質問の設定に当たりましては散歩なども含めるということとっっております。

山田市長

ということはそういうことも、何っいうか、本当に軽い、腕立てとかじゃなくて、散歩していても、それはスポーツなんだよ、という認識で答えてはっだいてる。ということは散歩すらしてない人が多いということですよ。なるほど。はい。いっずれ散歩であれば1人でもできることだろっと思っのですけども、そうは言っても現実としては始めたい思っはあるけれども、年をとった、機会がない、時間がない、色々な理由で、踏み切れずにいる方が多数おられるというふうな状況だろっと思っますね。

荒井委員はいかがでしょう。

荒井職務代行委員

はい、前の素案段階から、「する・みる・ささえる」というのをつけていただき、分かりやすくなったなと思います。「する・みる・ささえる」という観点は多分、先ほどご説明のあったように、「する」ほうに持ってくために、「みる」人たちを増や人たちを増やそうとか、「ささえる」方に行くのか、どっちに行くのか分かりませんが、そういったお互いの関係性って結構あるような気がするんですね。そういったところも少し、この後の話になるかもしれないですけども、方法論として、少しく、頭に置いて、考えていくというのかなっていうようなことを感想として持ちました。

山田市長

「する・みる・ささえる」、いろんなスポーツとのかかわりがある中で、最終的には、「する」ほうにも、持っていけるようにするといいということでしょうか。

荒井職務代行委員

恐らくそうなんだろうなと思ったんですね。やっぱり見るっていうことを起爆剤にしていくとか、最終的に、支えていくような立場になっていくとか、関係性ってというのが少し見えてくるのかな、と思いました。

山田市長

いろんな形でスポーツに関わっていく形ですね。これを作っていくことで結果として、する人も増えてくるし支える方も増えてくるんじゃないかということですね。

長沢委員はいかがでしょう。

長澤教育委員

はい。素案の段階から拝見させていただいて、全体的に本当に資料も見やすくなりましたし、非常に分かりやすくなったなというふうに拝見させていただきました。本当に、目指すところが生涯スポーツというか、そういったものにも関係してきますし、やはり名取市民の運動実施率のデータの低さってところの信憑性は、今後のいろんな取組のところ、ベースになってくる数字だと思うのですが、私は、これは名取市民の奥ゆかしさじゃないかなというふうに思いました。もっとやっている、おじいちゃんおばあちゃんも、動いてるんじゃないかなって感じもするんですね。そこで、今後のベースになってくるところでございますので、この数字は検証とか出来ないですか。ちょっと難しいのかな。

山田市長

その辺はどうですか。事務局のほうでは。

中島文化・スポーツ課長

はい。ちょっと今回のこの計画に当たっての検証というのは難しいかなと思うのですが、やはりこういったアンケートとったのが最初であり、また、可能性の話ではありますが、スポーツというとやはり競技的なものというような頭があって、アンケートの設問の選択肢に散歩とかもちゃんと入れてはいるのですが、やはり先生がおっしゃられた奥ゆかしさというか、何というか、「私、大したことでないわ」というような感じで、控え目にお答えになっていたり、あとやはりスポーツの定義というものがまだ浸透していないという部分もあるかと思しますので、今後、この計画に基づいていろいろ施策を進め、そのスポーツの定義というものも、どんどん啓発して行って、それによって次回の計画策定の折には、また数字のほうかどのように変わってくるかということも見ていきたいと考えております。

長澤教育委員

はい、ありがとうございます。

山田市長

むしろ、高い数字であるよりは、低いところからスタートして、意識面も含めて、改善していくっていうのがいいかもしれないですね。はい、ありがとうございます。

教育長いかがですか。

瀧澤教育長

はい。さっき市長さんもおっしゃったスポーツのとらえ方ですね、アンケート、確かに設問に、散歩とか、軽い運動もスポーツに含むとは入れてはあるんですけども、まだまだやっぱりスポーツのとらえ方が、競技スポーツとか、激しいスポーツっていうイメージは皆さん持ってるんじゃないかなと思います。それから35.7%という実施率については、内部でもかなりいろいろ議論というか話し合いもしたんですけども、どうしてこんなに名取は低いのか、という、はっきりした根拠っていうのは見つからなかったんですね。ただ、これを具体的に今後上げていくっていうふうなことは当然必要なわけですが、名取市の実情としてスポーツ機会をもっと増やすとか、場所とか施設を充実させるというのは当然これから考えていかなきゃいけないんですけども、名取がそんなに極端にスポーツ機会が少ないとか、場所とか施設がない、という状況ではないんじゃないかと思うんですね。私これを見ながら考えてたのは、きちんとそれが周知されているかどうか、市民の方とかに認識していただいているか、というところも、考えていかなきゃいけないのかなというふうに思っています。いろんなイベントを何で知りましたか、というアンケートで、広報が、58%ぐらい、あとは公民館だより27%、知人友人家族っていうのが24%ぐらいあるんですけども、広報とか公民館だよりを活用していくっていう一方、スポーツ推進計画と離れるんですけども、この間の文化会館であった市民文化祭を何で知ったか、というアンケートを見たら、「ポスター・チラシ・広報」が139人に対して、「知人・友人・家族」というのは235人で倍近くいたんですね。だから口コミとかっていうのもかなり大きいな、と思いました。スポーツ機会とか場所とか施設について、どういうふうにPRして周知していくか、そのことによってスポーツをやってみようか、とい

う人は絶対に増えていくと思うので、そういったところも大事な視点なのかなと感じております。

山田市長

はい、ありがとうございます。ではそのほかで何か1章・2章の説明の中で感じたことなりご意見があれば伺います。特によろしいでしょうか。はい、では具体的な施策のほうに入っていきたいと思います。では以上で前半を終了とさせていただきます。後半部分の説明をお願いいたします。

佐藤文化・スポーツ課スポーツ振興係長

それでは、19 ページ、第3章、目指す姿、皆様20 ページ、21 ページをご覧くださいと思います。1. 将来像と基本目標について、(1) 将来像でございます。こちらにつきましては、名取市民が、誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことができるスポーツでつながる名取、こちらの、大きく字を書いているところがございますが、このスポーツでつながる名取をキャッチフレーズとして進めてまいりたいと考えております。この計画につきましては、「つながる」というところをコンセプトとして、これから出てまいります基本目標につながってまいります。この基本目標でございますが、1の「スポーツで、誰もが健康につながる」というところ、こちらの計画につきましては、まず、名取市で初めてつくるスポーツ計画でございますので、まず市民に見ていただきたい、多くの方に読んでいただきたい、というところから、分かりやすく、二つの基本目標としております。その一つの「スポーツで誰もが健康につながる」というところにつきましては、「誰もが」を主眼として、できるだけ多くの市民にスポーツを親しんでいただき、健康につなげたいという思いで作り込みをさせていただいております。続きまして21 ページでございますが、こちらに市民アンケートの結果表をこちらに掲載してございます。こちらをご覧くださいますと、上の段の、健康である・どちらかといえば健康であるというところが79.8%、8割弱の方が、自分は健康であると自認している。しかし一方で、下の表をご覧くださいますと、体力に自信がない・どちらかといえば体力に自信がないが54%、半数以上の方が体力に自信がないとなっています。こちらは健康ではあるが、やはり体力には自信がないということが市民アンケートの調査から読み取れるということになっております。

続きまして22 ページ、23 ページをご覧くださいと思います。基本目標2「スポーツで人とまちがつながる」というところがございます。こちらにつきましては、ひととひと、ひととまち、また地域と地域や、スポーツを通して交流が生まれて、ひととまちがつながるところをイメージして進めたいと考えております。こちらの23 ページの表をごらんいただきますと、1番上にですね、地区民運動会、こちら市民アンケートの調査で、市民の認知度を皆様にお聞きしたところ、27.9%の市民の方が、やはり、地区民運動会という、身近な地域の方々の運動スポーツが上位に来ている。2番目には、スポーツ少年団や地域スポーツ団体の活動。やはりその子供たちの活動が、子供たちだけじゃなくてその保護者というか親も含めて、子供たちがスポーツに関わっていくと親も関わる。この地区民運動会や、スポーツ

少年団の活動がキーポイントになるのかなというところを考えているところがございます。

続きまして 25 ページ、第 4 章のほうに進んでまいります。26 ページをご覧いただきたいと思えます。こちらは具体的な施策の方向を示しております。将来像につきましては、「誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことができるまち スポーツでつながる なとり」基本目標として、1に、「スポーツで誰もが健康につながる」。2といたしまして「スポーツでひととまちがつながる」で、各、基本目標 1 に対しまして、施策の方向を、1-1 から 1-5、基本目標 2 に対して 2-1 から 2-5 というこで、具体的な方向性をお示しております。それでは 27 ページでございます。基本目標 1、「スポーツで、誰もが健康につながる」1-1、「子供のスポーツ機会の充実」、こちらの下の黄色で、「スポーツをすることが好きな子供を増やします」。こちらにつきましては各項目に、ポイントとなるところを、黄色の字でお示しをしているところがございます。その下に、青丸が四つございますがこちらの色抜きしてあるところにつきましては、どのようなことを、今後具体的に組みんでいくのかというところを、分かりやすくお示しをしているところがございます。こちらの、子供スポーツ機会の充実につきましては、スポーツの体験会や教室の開催など、こういったことを通じて子供たちが気軽に参加できる体験会や教室を開催してまいりたいと、こちらの下のグラフを見ていただきますと、1 番高いところにつきましては「体を使うことが好きだから」というところもございませうけども、ちょうど真ん中のところの、「好きな(憧れの)スポーツ選手がいるから」というところも、名取市が進むべき道で、後ほど出てまいります、「本物の」というところのコンセプトにつながってまいります。

28・29 ページをごらんいただきたいと思えます。こちら、子供たちからアンケートをとった結果でございますが、スポーツをやってよかったことは何ですかというところでございます。確かに 1 番上に、体力がついて、体が丈夫になった、というのが 1 番高いことがお示しされているんですけども、逆にこの下のほうをごらんいただきますと、礼儀が正しくなったとか、我慢強くなったとか、生活が規則正しくなったというような、子供たちが自分でこういったことを感じられるのも、これは名取市で、スポーツを経験している子供たちが、感じているのは非常にいいことだなというふうはこのアンケートから、感じております。

続きまして 1-2、働く世代・子育て世代のスポーツ機会の充実についてでございます。こちらは、ライフスタイルに合った運動の普及や、場づくりを推進します。こちらは、仕事をしても、やはり身近な場所で気軽にできるスポーツを広めていきたい。また、親子で参加できる教室やイベントの開催などを検討していきたいというふうにご考えております。実際に、下のグラフを見ていただきますと、1 番上に、日常生活の中で気軽に取組めること、というところが上位に参っております。特に、女性の方については 83.3%が日常生活の中で気軽に取組めることというところが大きなポイントだなというふうに思えます。また下のところにですね、このオレンジで枠でくくってあるんですけども、こちらは、市民ワークショップ等ですね、皆様からいただいたご意見を、こちらのほうに記載させていただいております。

続きまして、30 ページ、31 ページをお開きいただきたいと思えます。高齢者のスポーツ機会の充実でございます。運動による健康増進や生きがいづくりを促進します。こちらは高齢者でも取組やすい運動ですとか、取組やすい機会を提供して、高齢者の健康寿命を伸ばして

いきたいというふうを考えているところです。下の表にも、グラフにもございますけども、これは県内の自治体の健康寿命の比較でございます。1番上が富谷市でございますが名取市は、2番目に、健康寿命が長いということで、こちらはデータから、ここに掲載しているところでございます。続きまして31ページをお開きいただきます。1-4、障害者スポーツの環境整備と普及促進でございます。こちらは、障害者スポーツを通した共生社会の実現を目指します。なかなかこれまで障害者のスポーツというのが、名取市でも、取組が、まだまだ不十分だったところもございますが、東京2020、オリンピックパラリンピックで、障害者スポーツというのが注目されていたということもございまして、新しい計画では、障害者の方々と一緒にスポーツに触れ合える機会を増やしたい。具体的には、ボッチャという競技とか、よく、障害者スポーツ使われるんですけども、こういった大会や、またそういった指導者を育成して、そういった大会が行われるように支援していきたいと考えております。

続きまして32ページ、33ページをお開きいただきたいと思っております。1-5、均衡のとれたスポーツ環境の充実でございます。こちらは市民のニーズに即したスポーツ環境を整備します。市の時代のニーズに即した計画的な改修、備品等の充実を図りながら推進してまいりたいと思っております。また市民アンケートからも、自宅、または、その周辺でスポーツをしているということが、下の表から読み取れますので、気軽に、とか、近くで、とか、こういったことも、今後は、皆様とも一緒に考えていきたいと考えております。こちら、下の表を見ていただきますと、左から2番目の自宅またはその周辺というところの太い字で書かれてあるんですけども、20代、30代40代50代、こちらが高い数字となっております。逆に、10代の方は、学校施設がやっぱりご利用いただいているということで、普段、利用している場所が読み取れると思っております。こういったところを、右側には名取市民球場の写真もございまして、名取市の十三塚公園や市民体育館を利用して、多く利用していただきたいと考えているところです。

34ページ35ページをお開きいただきたいと思っております。基本目標2、「スポーツでひととまちがつながる」でございます。2-1、多様な主体と連携したスポーツコミュニティの形成、こちらにつきましては、各種団体との連携により、地域スポーツの活性化につなげます。こちらは様々な団体がございまして、そういった団体と連携して、スポーツ振興に努めてまいりたいと思っております。また、各団体のスキルやノウハウを活用した取組などを、今後は検討してまいりたいと思っております。実際に総合型や、企業・大学も含めて名取市にはたくさん、応援していただいている、協定を結んでいる団体さんがございまして、こういった団体と、様々な連携も、今後も継続して進めてまいりたいと思っております。

続きまして2-2、地域スポーツの振興でございます。こちらはスポーツを通したひととひととの交流を促進します。市民のライフスタイルに合ったイベントの開催や、スポーツを通した地域づくりを促進してまいりたいと考えております。また、市民総合スポーツ祭や、トータルスポーツの充実を図りたいと思っております。ちょうどこちらの下の写真でございますが、昨年、トータルスポーツ大会が市民大会で行われて、こちらのモルックという協議で、今、意外と皆さんが入って、モルックをされてる地域が多いんですけども、こちらの大会の写真をここに掲載してございます。

それでは 36 ページ、37 ページをお開きいただきたいと思います。2-3、スポーツ資源を活用したにぎわいの創出でございます。魅力ある資源を活用し、交流人口の拡大を促進します。こちらは、本市の施設に関わる情報発信と情報提供をすることで、市内外の大会の誘致や開催などを促進してまいりたいと考えております。それによって、名取市がにぎわいの創出を図っていくというところでございます。下の絵にはですね、これは名取のトレイルセンター、また、名取市のサイクルスポーツセンターを掲載しておりますが、先日も、宮城県女子駅伝をこのサイクルスポーツセンターで行いました。自転車だけではなくて、そういった駅伝や、マラソンなども、サイクルスポーツセンターを利用して、今後も進めてまいりたいと思いません。

続きまして、2-4、競技スポーツ団体の支援と人材の発掘でございます。スポーツに関わる競技者と指導者の育成支援に取り組みます。名取市では、全国大会に出場した皆様へ報奨金助成支援や、各種講習会の開催など、スポーツに関わる競技者と指導者の育成に取り組んでまいります。実際に今年度も全国大会に出場された、100 を超える皆様が、助成金を申請をしておられます。コロナの影響もございましたが、以降は毎年増えて、名取市のスポーツがどんどん、全国大会を皆さん目指して頑張っているというところがこちらで読み取れます。今後も、この報奨金の制度を皆様に周知して行って、申請をしていただきながら支援していきたいと考えております。

それでは 38 ページをお開きいただきたいと思います。2-5、本物のスポーツに触れる機会の創出でございます。トップアスリートに触れることができる機会をつくります。こちらは、スポーツで活躍しているトップ選手を見る機会をすることで、憧れや、目標が生まれ、そして名取市のスポーツの裾野を広げてまいりたいと考えております。こちらには昨年実施しましたベガルタ仙台によりますサッカー教室の様子、また、ドリームベースボール、これはプロ野球で活躍した選手の方々が、名取の子供たちに少年野球の教室として、子供たちに野球を教えている様子などを掲載しております。このような、本物に触れる機会を増やして、子供たちが、よりスポーツを身近に感じて、生涯を通じて、誰もが、スポーツに親しむことができるそういった、つながるまちにしたいということコンセプトに、今回スポーツ推進計画をつくっているところでございます。以上となります。よろしくお願いたします。

及川主事

40 ページから 41 ページ、成果指標について説明いたします。当計画における「めざす姿」の達成度合いを測る、成果指標・目標値として次の 5 つを設定しました。まず、「市民のスポーツ実施率」についてです。計画に掲げる目指す姿の達成度合いを測る計画全体の成果指標として設定するものです。国・県の計画においても同様の成果指標が設定されております。目標値については、国・県の計画期間 10 年間における増加率を参考に、当市の計画期間 7 年間に置き換えて設定しております。

次に、「スポーツをすることが好きな子どもの割合」についてです。県のスポーツ推進計画に掲げる子どもに関する目標は、全国体力・運動能力調査の結果が全国水準を上回るとなっております。当該調査に係る県教育委員会が作成した報告書の分析から、スポーツをするこ

とが好きな子どもほど運動能力が高い傾向であることが示されております。また、市民全体のスポーツ実施率を高めていくうえで、低年齢層へのアプローチが効果的であることから、スポーツをすることが好きな子どもを増やすことが重要と考え、成果指標として設定するものです。目標値については、国・県における過去5年間の全国体力・運動能力調査質問紙で「運動やスポーツをすることが好き・やや好き」と答えた児童生徒の割合の平均値を超える値を設定しております。

次に、「障がい者スポーツに関わる市民の割合」についてです。パラリンピックを契機に、だれもが参加し、楽しめるパラスポーツへの関心が高まるなどスポーツの力が共生社会の充実において重要性が増すものと考えます。当計画の目指す姿に「スポーツでつながるなとり」を掲げることから、共生社会の実現を目指し、障がい者スポーツに関与する市民の割合を現時点よりも増加させることを目標値として設定しております。

次に、「体育施設の利用者数」についてです。こちらは、名取市第六次長期総合計画のスポーツ分野における成果指標であり、スポーツの振興及び普及が図られたことを捉えるために体育施設の利用者数の増加目標を設定しております。

最後に、「スポーツ環境の充実に関する市民の満足度」についてです。こちらも、名取市第六次長期総合計画のスポーツ分野における成果指標であり、スポーツ環境に対する満足度を指標とすることで、スポーツ分野全体の施策に対する評価を測るための目標として設定しております。

後半部分の説明は以上となります。

山田市長

はい。それではただいま説明ありました内容について、ご意見等いただければというふうに思います。目標に向けての施策を進めるに当たり、ご提案や、それに伴う課題など、ご提示いただければと思いますが、いかがでしょうか。市民総合スポーツ祭、健康づくりトータルスポーツ大会の認知度が7%っていうのは大変ショッキングな数字ですね。これは、たしか名取市を挙げて、名取市で1番力を入れている、市民総合スポーツ祭ですよ。その認知度が7%で地区民体育大会のほうが高いのは、より身近だからですけど。だから、市民総合スポーツ祭・健康づくりトータルスポーツ大会をどのように、全市を挙げた大会にしていくかっていうのは一つ大きな切り口かなと私は率直に感じてしまいました。それではいかがでしょうか。

長澤委員お願いします。

長澤教育委員

はい。地域住民としては、やはり、やっぱり1番身近なのは地区民運動会です。あとは我々の年代ですと、やはり子供がスポ少とかをやっていますから、こういった人数などはちょっと納得なんです。ただ、やはり市を挙げてっていうような、考えであれば、啓発という意味で、さっき瀧澤教育長さんおっしゃったように、ポスターなどを漠然と見て、認知する、という方もいらっしゃるし、やっぱり人から聞いて、口コミや、SNS等の発信なんていう

のも、あってもいいのかな、ということ、今、話を聞いて思っておりました。あとは、ざっと通しての感想なのですが、とにかく子供たちを含めてどういう年代の人たちにもスポーツに触れ合う機会、そしてみんなでつながっていきこう、つなげる、つなぐという、そういうコンセプトはよく分かりました。ただやっぱり、子供の世代にいかにもスポーツに関わってもらおうとか、あとは、運動神経しかり、あとは健康寿命しかり、スポーツとの関りは欠かせないというのは、これは科学的にもう実証されていることだと思うので、やっぱり力点、もちろん全ての世代に必要なのですが、子供時代にウエイトを置いてらっしゃるっていうのはすばらしいなど。ですから子供たちにいかにも、スポーツというものと触れ合ってもらおうか、その意識啓発というか、そういうところが必要で、より一層力を入れていかなければならないんだらうなっていうのを感じさせていただきました。

山田市長

はい、ありがとうございます。発信については口コミ SNS 含めて、しっかりやっていかなくちゃいけないということと、子供に力点を置いて、スポーツでつながる、ということをつくっていくというような、いいお話をいただいたかと思います。

荒井先生、いかがですか。

荒井職務代行委員

昨日、空港の向こうの北釜の公園をちょっと、通ったのですが、駐車場が入れないぐらい混んでいました。ちょうど昨日暖かかったからなのかもしれませんが、お子さんが皆、遊具で遊んでいる中、お父さんお母さんは、見守っているというか、何もせずぼーっと座っているというか、何か、みんな子供たちが頑張っている、多分楽しかったんだらうけれども、何かその間に、お父さんお母さんも何かできるものがあったらいいなあと思ったりしながら、通ってきました。公園なんかでも、いろんな遊具があります。大人向けのというのかな。いろいろと、健康遊具みたいなものも設置されたりしているところもあると思うんですけど、何か、あぁいったものをどれだけ活用出来ているのか、増やしてくれているのか、ということはずごく知りたいとこだな、と考えました。

山田市長

はい、今の切り口でいうと公園というのは確かに身近な場所で運動しやすい場所だと思いますね。子供が遊具で遊ぶ。それを大人が見守るだけじゃなくて大人も何か一緒に遊べるような、そういう仕掛けというかそういうことが習慣づいてくるとそれもスポーツっていうふうと呼べるのかなと思います。いい切り口のお話をいただいたと思います。関連してというか、外遊びっていうのは、これも、子供にとってはスポーツになるんでしょうかね。

中島文化・スポーツ課長

はい。

山田市長

缶蹴りとか、鬼ごっことかの外遊びを、やはり、学校で休憩時間に外遊びを、なんていうか、推奨するというか、部屋でこもってお話するのも一つだけれども、子供が外に出て、外遊びをするということを習慣づけるのも、もしかして、体を動かすことが好きになって、結果として、何かのスポーツの競技スポーツにつながっていくというようなこともあるかと思いますので、外遊びを推奨していく、学校ではそういうことをやる、で、近くの公園でもどんどん遊べるような環境をつくっていく、しかも親子で遊べる環境を作っていくというようになってくると、大分、広い意味でのスポーツにつながってくるかなっていう気はします。浅野委員いかがですか。

浅野教育委員

利用できる施設が近くにあるといい、となっていて、ある、と書いてくれている方もいらっしゃると思うのですが、自分のことに置き換えると、例えば相互台東のグラウンドがあって、地元の人が使っているのかということとそんなことではないです。まず、大会が入って、スポーツ少年団が入って、地元にあるグラウンドだけれども、自由に使えるところではない。高齢者向けのグラウンドゴルフのところは別かもしれませんが、そばにあっても、一般の人が自由に遊んでいるかということ、かなり制限がされている。そういうことでは、市長がおっしゃったように、子供が公演で自由にボール遊びや、走り回るということを名取市ってどのぐらい制限されているか分からないのですけれど、世の中では公園でボール遊びをしちゃいけないというのが浸透していて、名取市もそういう公園がどのぐらいあるのかなって思ったときに、せっかく子供の遊べる時間帯に使える広い場所がない、となります。小学校の放課後の校庭の開放っていうのは、名取市ではやっているんですか。

山田市長

その辺はどうでしょうか。各学校の校庭の開放というのはどうなっているんでしょうか。

中島課長

はい。スポーツ団体として、社会体育団体として登録しているところに開放しております。

山田市長

そうすると、普通の一般の子供が放課後に残って遊ぶのはちょっと難しいですか。

瀧澤教育長

今、文化スポーツ課長が言ったのは学校開放でスポ少とかですけど、下校時刻までは、学校で自由に遊んでいいというふうなルールにはなっているはずですが。近隣の児童センターがあるところは児童センターも、学校の校庭とか遊具で遊んだりしている。実際どのくらいの子供が帰りに校庭で遊んでいるかというのは別として使える状況にはなっているはずですが。

浅野教育委員

使える状況になっても、じゃあ、どのぐらいの子供が実際に遊んでいていいと思っているのか。知っているのか。みんな、今の子供たち忙しいので、学校が終わったら帰る、児童館に行く子は行く、ということだけで、「学校で遊んでいい」と、ちゃんと認識していればもう少し運動をする機会も増えるのかな、と思いましたが、子供以外になったときに、身近に、となったら、身近に使える場所、行ける場所、持ってる地区もあるでしょうが、本当に無いところは無いよね、と、ちょっと思ったりしました。

山田市長

はい、分かりました。増田の児童センターは場所の問題もあって一部増田小学校の校庭を開放していただいて、今もう毎日 200 人ぐらい。ものすごい元気いっぱい、増小の子は、特に健康かな、と思うぐらい元気いっぱい遊んでいるので、それはたまたますぐ隣に児童センターがあって使えるっていう環境があるんですけど、ああいう姿で、ほかの学校もそれに近いような形、不二小というか、名取が丘であれば、中央グラウンドがあるんですけどグラウンドがすぐそばにあるような環境で遊べると、少なくとも小学校ですかね、そういうのがあるといいかもしれないですよ。とにかく、ふだんから外で遊ぶような習慣をどうつけるか、そのための環境をどう整備して子供たちにも伝えていくかということは必要かもしれないですね。はい。貴重なご意見でした。ありがとうございました。

洞口委員はいかがでしょう。

洞口教育委員

まず 28 ページの資料なんですけれども、ここに小学校と中学校のデータが載ってるわけなんですけど、この項目を 3 つ 4 つ選びますと、体力がついて体が丈夫になった、友達が出来た、礼儀正しくなった、生活規則が正しくなった、ということで、小学校から中学校にかけて、全部ポイントがアップしていますよね。これはすごくいい傾向だなあと思っています。スポーツを行うことによって良好な結果が得られたと思っている評価かなあと思いました。

それから 29 ページの働く世代というところなんですけれども、名取市にはですね、かなりの企業があると思いますし、今度もまた大きい企業が来るというお話でしたので、名取市を PR するためには、忙しく働いている世代、なかなかスポーツが出来ない、休みの日は子供たちとかそのほかのことで終わるっていうような、働く人たちにですね、ぜひ企業向けの、例えば名取市を PR するために、例えば朝の仕事始めの 10 分前に体操をなるべくしましよとか、それから、昼、休み終わる前の 10 分前にストレッチを、眠気を覚ますためのストレッチをしましよとか、また、例えば野外ミーティングとか、そういうものを勧めてもいいのかなあと思っております。これは、名取市の PR も兼ねてやったほうがいとちょっと私なりに思うんですね。

それから地区民運動会は各地区で行われると思うんですけど、ない地区もあるそうで、かなり減ってきてたしかに、まとめるのも大変なんです、町内会としても。それもあるのですけれども、やはり児童館なんかで、昔、大縄跳び大会とかいろいろあって、小学校毎に燃

えた時期があったと思うんですね、平成の時代なんですけれども。そういうのを、今はあまり縄跳びしている子供たちも見かけない、昔ながらの棒飛びみたいなものやってないということで、少し児童館のほうでも昔の遊びをもう1回見直して、そしてスポーツにつなげていったらいいんじゃないかなあと思っております。全部現代風って言うのではなくて、やはり昔をもう1回見直して、ちょっといいところを取上げていただいて、あと今風のものも取上げていただいて、大人から子供まで、そしてまた、名取市で働く企業の方々、市外から来ている方でも県外から来ている方でも、名取はスポーツが出来て楽しいなっていうように思えるほうがいいかなと思っております。

山田市長

はい、ありがとうございます。企業むけの体操なりストレッチなりっていうところは、また別の部門とも連携しながらという形にはなるかと思うんですけど、この働く世代子育て世代のスポーツ機会の充実っていう中に、そういった要素を、今発言いただいたような内容を、新たに取り込めるかどうか、というのはちょっと検討いただければというふうに思います。あとさっきの子供の外遊びのところにつながると思うんですけど児童センターで、これも児童センターとの連携の中で、何て言うんですかね。今本当に自由に遊んでいることが多いと思うんですけど、単に自由に遊ばせることに加えて、さっき言ったような、何か。種目じゃないけど、何か、推奨するようなものを決めて大縄跳びであったりとか、何か、ドッジボールであったりとか何かを決めて、それを今度は大会を開催する、みたいな、児童館対抗であったり地区対抗、それを、例えばさっきの市民総合スポーツ祭の種目にするとかね。何かその上、上の大会があるよっていうのを、日頃から児童館だったり学校の校庭だったり子供たちが練習するような、何かそういう仕掛けがあると、つながってくるというか、子供だからね、もっとこう、うまくなりたい、と思うようになってくるといいのかな、と思いながら話を聞いておりました。ありがとうございます。

では、それらのお話を受けて教育長さん、まとめていただければ。

瀧澤教育長

2点申し上げます。1点は子供のスポーツということが大分話題になりましたけれども、子供がスポーツ好きだっていうのが名取は低っていうことですが、男の子で9割、女の子で8割ぐらい。私の受け持っていた頃の感覚からいうと、昔もそんなもんだったような気がするんですね。嫌いな子は嫌いなんですね。肥満傾向とかがあると。それで、子供をスポーツを好きにしていってっていうのを考えたときに、学校の存在ってのはやはりかなり大きくなって感じます。やっぱり学校体育、今回のスポーツの経験には学校の保健体育は除くというアンケートなので入っていないんですけども、学校体育で体を動かすことの楽しさなどを味わわせることができるかっていうことと、あとはどうしても中学校の部活動。部活動の体験・経験というのが大きい。もちろん勝つことは、目標として大事なんですけど、勝利至上主義であったりとか。

あと市長さんからも外遊びのこと随分言われましたけど、これは私は本当に推奨したいで

すね。私が若い頃雪が降って、「校庭で雪合戦をしよう」、と言ったときに、子供たちみんなが「寒いから行きたくない」、と言われがっかりしたこともあります。今の先生たちにも、子供と一緒に外で遊ぶ、ということも忙しい中ですが推奨していきいたいな、というふうに思います。ドッジボールや、いろんな遊びの大会っていうふうなことも出たんですけど、ドッジボール大会、今度ありますけれど、去年より多く、今12チーム、去年よりは多くなってきて、もともと冬場の運動機会の少ない子供たちに、機会を、ということから始まったと聞いています。そういったのを盛り上げていきいたいなというふうに思います。それからもう1点、スポーツをする場所としてアンケートを見ると、圧倒的に多いのが自宅とか道路とかなんです。あと、身近に取り組めることで習慣化できるといいと思っているという人も、かなり8割近くいるので、さっきも幾つか話題出た、公園をうまく活用出来ないかなということをも考えています。聞くところによると都市計画課のほうで、実証実験で北釜公園と海のみえる丘公園でいろんな取組をするということも聞いているし、さっき話題に出た、公園でボールが使えないとかっていうのもありますけど、身近なところで体を動かせる場所として、公園をうまく生かせないかな、と思います。教育委員会とかだけでは出来ないけども、都市計とか市長部局と、連携して、あそこをうまく活用出来ないかな、と、ぼんやりと考えています。

山田市長

はい、ありがとうございます。風とかがあるから難しいかもしれないですけど、普通の軟式野球ボールを、バットで振って打っちゃ駄目なんですけど、何かそういうやわらかいものがあるのではないですかね、そういうんだったらいいよとか、かえってそれを推奨するとかね、何かこう公園で遊べるといいかもしれないですね。はい、ありがとうございました。

何かその他、皆さんのほうからございますでしょうか。よろしいですか。

高齢者の話は、あまり出ませんでしたけど、県内で2番目に市部で健康寿命が長いっていうこれももっと、宣伝してもいいフレーズかもしれませぬね。82.4歳まで健康なんですよね、平均で。すばらしいことだと思います。

では、事務局におかれましては、本日の協議内容を尊重して事業に取り組んでいただきたいと思います。では協議については以上とさせていただきます。ありがとうございました。次にその他、4、その他ということですけど事務局に何かございますか。

下山次長兼教育総務課長

特にございません。

山田市長

無いようでありますので以上で終了いたします。ありがとうございました。

10 終了時刻

午前4時08分